

コミュニティ・スクール導入へ向けた基本イメージ（案）

1 コミュニティ・スクールの基本的な性質

コミュニティ・スクールは学校運営協議会を設置し、学校と地域の信頼関係を深めながら、地域と学校を豊かにする取り組みです。

君津市のコミュニティ・スクールは、地域とともにある学校として、次のような基本的な性質を持つものです。

① 風通しのよい関係で地域と学校の信頼関係を深める取り組みです。

学校運営方針や課題、地域の状況などについて、学校運営協議会での意見交換などを通じて、学校と地域が風通しよく共通理解を深められるようにします。

② 地域の人を力生かした幅広い教育活動を展開する取り組みです。

地域の人を力生かし、学習サポートや部活サポート活動、地域の歴史、自然、文化についての学習、職場体験などの機会を充実させ、地域の特色を生かした教育活動を展開します。

③ 人と人、地域と地域の交流を深める取り組みです。

地域は「ご近所」の身近な範囲から、より大きな範囲まで様々に捉えられます。ひとつひとつの地域を大切にす視点と、さまざまな地域を見つめるズームレンズ的な視野、他の地域との新たな関係をつくる視点なども大切にしながら、人と人、地域と地域の交流を深める取り組みです。

④ 学校と地域がともに生き生きとする取り組みです。

地域の力と学校の力が、一方通行ではなく双方向に循環することを大切にする取り組みです。

2 拠点校における展開

コミュニティ・スクールを円滑に導入し、効果的な展開・発展をめざすために、拠点校における取り組みを展開します。

- ① 各学校再編メニューの実施予定、既存の地域活動、学校評議員制度の状況などを総合的に考慮し、コミュニティ・スクール拠点校として、1～2校程度を指定します。
- ② 拠点校指定にあたっては、学校、保護者、地域住民と丁寧に協議し、双方で理解を深めながら決定します。

- ③ 拠点校における取り組みをもとに、将来的には各校でコミュニティ・スクールの良さを生かした、協働による「地域とともにある学校づくり」を進めることをめざします。

3 学校運営協議会

学校運営協議会の設置にあたっては、以下の点に配慮します。

- ① 学校運営協議会の人数等、具体的な仕組みは、導入候補校の状況、各地の先行事例等をもとに検討し、規則で定めます。
- ② 既存の学校評議員が、P T A・青少年健全育成団体等の代表者をはじめ、地域の各団体等から構成されているため、初期においては既存の学校評議員を基本とし、当該校の学校評議員は学校運営協議会発足時に発展的移行とします。
- ③ 既存の学校評議員以外についても、社会教育機関職員、地域産業関係者など、幅広く選出し、専門分野での力を生かします。
- ④ 人選にあたっては、「あて職」以外の人が広く参画できるよう配慮します。

学校運営協議会の委員構成イメージ

例：保護者・P T A関係
学校・教育委員関係
地域団体関係
学校ボランティア
伝統文化関係
福祉関係
近隣の保育園・幼稚園・学校関係
社会教育関係
学校O B

等

4 コミュニティ・スクールと社会教育

コミュニティ・スクール導入にあたっては、地域・学校がともにコミュニティ・スクールへの理解を深めあうことや、人材の育成支援、ネットワーク作りなどが大切です。社会教育は次のような視点でコミュニティ・スクールに関わります。

- ① 教育への理解、地域コミュニティの重要性への理解、コミュニティ・スクールそのものへの理解を深めるための学習・体験の機会等を提供します。
- ② 地域の社会教育機関は学校運営協議会の一員に位置づくことも可能です。
- ③ 機関の専門性を生かし、教育事業、地域活動等を支援します。
- ④ 地域の人との交流・学習の拠点として、地域団体や、ボランティアなどの育成支援、ネットワークづくり、これから地域活動に役立ちたい人への活動機会の提供などを行います。

5 コミュニティ・スクールの導入にあたって

コミュニティ・スクールには地域と学校との信頼関係が不可欠で、学校、地域双方で「地域とともにある学校」を目指すもの、お互いに配慮する点などを共通理解することが大切です。

導入にあたっては、教師と子どもとの信頼関係への配慮、地域文化への配慮等、お互いに大切にしたい点の共有を大切にします。

- ① 準備段階では、「コミュニティ・スクールマイスター派遣制度」等を活用し、地域や学校の皆さんが、コミュニティ・スクールへの理解を深める機会を設けます。
- ② コミュニティ・スクールのすべての関係者で押さえておくべき「基本的な考え方」をつくり、理解を深めます。

6 今後の計画

拠点校での事業実施に向けては、候補校・地域との丁寧な協議を重ねながら準備を進めますが、3年で計画した場合、次のような流れを想定しています。

【例 準備から試行まで3年で計画した場合】

1年目 導入・実施計画の具体化

- ・ 候補校確定に向けた協議（学校・地域）
- ・ 社会教育機関との協議
- ・ 候補校指定承諾
- ・ 予算構築検討
- ・ 条例、設置要綱等準備

等



2年目 試行への具体的な準備・理解の深化

- ・学校、地域説明・研修
- ・CSマイスター制度活用
- ・予算準備
- ・準備会設置
- ・学校運営協議会候補者検討・依頼準備等
- ・実施校における具体的展開計画策定

等



3年目 学校運営協議会制度試行開始

- ・学校運営協議会の展開
- ・各種事業等の展開
- ・試行展開をもとに本格実施準備

等

また、この流れの随所で、既存の地域団体、サークル、ボランティアなどと協働し、実験的な取り組みを展開することも視野に入れます。

7 柔軟な視点での導入について

学校、地域の状況により、当初からの正式な形での学校運営協議会設置が難しい場合には、正式な学校運営協議会の仕組みをやや緩和した形式での取り組みを視野に入れ、段階的に学校運営協議会への移行をめざすものとします。（参考例：熊本版・信州版など）

【例：共有したい基本的な考え方】

コミュニティ・スクールを進める上で大切にしたいこと (基本的な考え方)

コミュニティ・スクールは「地域とともにある学校」として、学校には地域の力を、地域には学校の力をそれぞれ生かし、子ども、地域、学校がともに生きいきと輝くことをめざす取り組みです。

学校の先生だけではできないこと、手が足りないことなどは地域の人々の力の見せどころです。地域の様々な活動に子どもたちの力が必要なときなどは、学校の力の見せどころです。また、子どもだけでなく、コミュニティ・スクールを通じて交流を深めたさまざまな人が、それぞれ学校、地域にあらたな力を生み出す主人公になります。

学校、地域のみなさんは、ともに次の点を大切に、地域と学校の信頼関係を豊かに育くみ、楽しく、意義深い取り組みにしましょう。

地域と学校の風通しの良い関係づくりを大切にします。

- ・学校も、地域も、お互いにリクエスト、困ったことなどがあれば気軽に話し合いができる風通しの良い関係づくりに努めます。

学校は地域を大切にします。

- ・学校は、子どもたちとともに地域の人から多くのことを学び、たくさんの知恵や力を分けてもらうという姿勢を大切にします。
- ・地域には、そこに暮らす人々が大切にしている文化があります。学校はそれらを尊重し、地域文化がより豊かになるよう、学校の力を発揮します。

地域は学校を大切にします。

- ・地域のみなさんは、子どもたちや学校から多くのことを学び、たくさんの元気を分けてもらうという姿勢を大切にします。
- ・学校には、個々の子どもの状況に沿った教育的な配慮や、長い目でみた授業計画などがあります。地域の人々はそれらを尊重し、それぞれの力を発揮します。